

やろうよ、音ゲー

文責：PTOMO

1 はじめに

新入生みなさん、ご入学おめでとうございます。ここでは音ゲーを紹介しようと思います。

ゲームと言われると、アクションやRPGといったジャンルがはじめに思い付くと思いますが、音ゲーも立派なジャンルのひとつです。家庭用ゲームでは得られない、アーケードの大型筐体の迫力や音圧、プレイの爽快感はとても魅力的です。ゲーセンに行く時にはぜひチェックして欲しいです。

あらかじめ言っておきますが、**KONAMI**の音ゲーを紹介します。「**太鼓の達人**」については紹介しません¹。そちらは全くやっていないので。

2 全般的紹介

まず、音ゲーに共通するところから紹介します。

音ゲーでは、流れる曲に合わせて画面に出現するオブジェを、ボタンなどのデバイスを押して（叩いて・踏んで）演奏していきます。この時、タイミングが正確なら正確なほどスコアが高くなり、ゲージが増えていきます。クリア条件はゲーム・モードによって異なりますが大まかに言うと、ゲージ・スコアが一定値以上、もしくは曲の終了時にゲージが残っている、です。

音ゲーの面白いところは、やはり演奏しているときの充実感です。また、楽曲数が豊富なので²やり込み要素も多く、クリアしていく達成感は大きいです。収録されている楽曲は、誰もが知っている曲や流行りのJ-POPから、ゲームの為に作られた専用曲など多岐に渡っていて、クオリティがとても高いです。一度やってみると実感できると思います。

3 各個紹介

これらが、KONAMIのBEMANIレーベルに属する音ゲー。次のページで一つ一つ紹介します。

「beatmaniaIIDX」

「pop'n music」

「jubeat」

「GuitarFreaks」

「DrumMania」

「DanceDanceRevolution」

¹ 別にナムコに恨みなどありませんよ

² 更に言うと、同じ曲でも難易度が違う譜面があります。大体1曲につき3つぐらい。

「beatmania IIDX」(IIDX、ビーマニ、貳寺) (カッコ内は通称)

デバイス：7個の鍵盤+ターンテーブル

私が最もやり込んでいるゲームです。大きな特徴としてはオリジナル楽曲が豊富、ゲームの操作性が独特³といったところです。綺麗な鍵盤捌きとターンテーブルのテクニックが要求されます。やはり、このゲームはターンテーブルを回す動作が面白いです。ターンテーブルを沢山回すいわゆる皿曲⁴は、脳汁がだらだらするような楽しさがあります。鍵盤と円盤の複合プレイは難しいですが、コンボがつながると物凄く楽しいです。また、自身の成長具合を測る段位認定モードは上達のよいモチベーションとなります。最新作の *SIRIUS* では新しくチャージノートとバックスピンスクラッチという機能が増えたので、ゲーム性も増加しています。ちなみに、IIDX はツデーエクストと読みます。

「pop'n music」(ポップン)

デバイス：9個のボタン

こちらはたまにやる程度です。特徴としてはボタンが多くて大きい、オリジナル楽曲に加えアニソンやJ-POPも収録されているといったところです。また、5ボタンモードもあるので、初めての人でも安心してプレイできます。少し慣れれば、1人で9ボタンをやっても十分遊べます。もちろん、難易度が高い曲は相当やり込まないと難しいですが。現在の最新作はせんごく列伝です。

「jubeat」(ユビート)

デバイス：4×4の16枚のパネル

この中では最も新しいゲーム。最近ハマっています。特徴としては操作が分かりやすい、オリジナル楽曲に加え一般に知られる曲が多く収録されているといったところです。このゲームは他のゲームと少し違い画面そのものがパネルとなっていて、画面に現れるマーカーに合わせてパネルを叩きます。操作性がかなり直感的に作られているので、初めての人でも十分楽しめます。ゲー研会員でもプレイしている人は結構多いです。最新作は *ripples* ですが、次回作 *knit* が開発中です。

さて、ここから下のゲームはほとんどやったことがないのであまり詳しくありません。ですが、出来る限りの紹介はしようと思います。

「GuitarFreaks」(ギタフリ、GF)

デバイス：3つのネックボタンとピッキングレバー

見たまんまギターです。収録されている曲もオリジナル楽曲・一般的な曲共にギターの演奏が入っ

³ だから初心者が入りにくい訳ですが……

⁴ 人はこれを「赤い柱」「かまぼこ工場」と言う。

ている曲です。ゲームなので本物のギターとは違いますが、有名なバンド曲も多々入っているようです。執筆時現在新作は *V6* ですが、3月には *V7* や *XG* といった新作が出る模様です。特に *XG* はネックボタンが5つになるみたいですね。

「DrumMania」(ドラマニ、DM ギタフリと合わせてギタドラ)

デバイス：5つのパッド(ハイハット、スネアドラム、ハイタム、ロータム、シンバル)とフットペダル(バスドラム)

見たまんまドラムです。収録されている曲は前述のギタフリと同じで、セッションプレイも出来るようです。ドラム経験がある人ならある程度できると思います。執筆時現在新作は *V6* ですが、3月には *V7* や *XG* といった新作が出る模様です。特に *XG* は7パッド2ペダル(レフトシンバル、フロアタム、レフトペダルが追加)となり、本物に近い臨場感が出るそうです。

「DanceDanceRevolution」(ダンレボ、DDR)

デバイス：4枚のフットパネル

こちらは足を使うゲームですね。収録曲も他のゲームとは違いダンス系の曲が多いですが、他のBEMANIシリーズの曲⁵や一般に知られる曲もあります。ゲームは画面に現れる矢印に合わせて足元のパネルを踏むのですが、経験上では結構難しかったです。運動量で見ればNo.1だと思います。新作は *X* ですが、今年の6月には *X2* が出るようです。とある…曲が入るとか。

4 まとめ+おすすめ順位

さて、それぞれのゲームを紹介したところでまとめていこうと思います。

とりあえず、初心者におすすめするならどれがいいかを順位づけしてみます。重要なのは、「収録楽曲の知名度」「操作性」「難易度」でしょうか。これを基に考えると……

jubeat > pop'n > GF = DM > DDR > IIDX

あれえ、ビーマニ最下位じゃん。どういことだよ。

まあ、この通りビーマニは初心者には敷居が高いんですよ。しかし、こういうときの為の家庭用は販売されているので、やってみたい方はそちらから入ることもできます。と言うか、**誰かやってみませんか。**

それと大事な事が一つ。KONAMIのe-AMUSEMENT PASSがあるとプレイデータが保存されるので、音ゲーを始める人はゲーセンで購入することを強く勧めます。QMAとかでも使えますよ。

以上で記事は終わりです。読んでくださってありがとうございました。

⁵ BEMANIシリーズの中ではゲーム間で相互に曲が入ることも。いわゆる移植。